

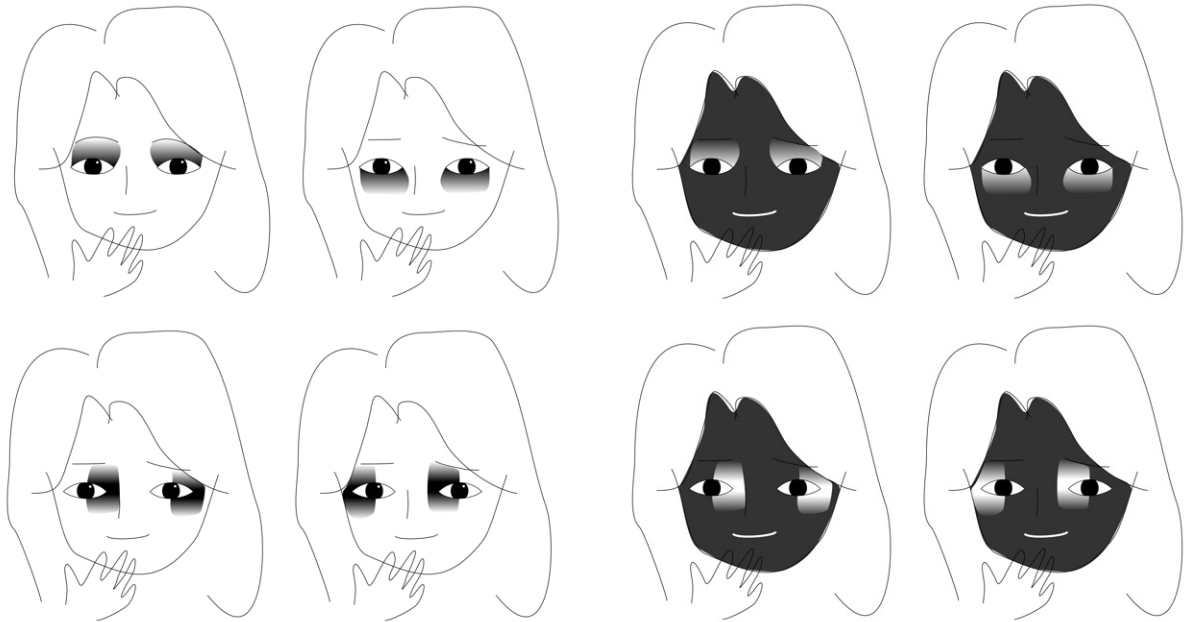
第4領域 (公募 班員)

研究課題名	顔の錯視の探索的研究		
班員名	北岡 明佳	E-Mail	akitaoka@lt.ritsumei.ac.jp
所属・職名	立命館大学文学部教授		

要旨 (図表も可)

本発表では、当班員が視線方向の錯視を2種類発見したことを報告するとともに、それらを含めて視線方向知覚に關与する要因をレビューする。

新しい視線方向の錯視の一つは、「アイシャドーによる視線方向の錯視」である。これには2種類あり、(1) 肌よりも暗いアイシャドーをつけると視線はアイシャドーとは反対側に変位して見える現象 (下図左の4つの白い顔)、および (2) 肌よりも明るいアイシャドーをつけると視線はアイシャドーの同側に変位して見える現象 (下図右の4つの黒い顔) から成る。これらの錯視は個人差が大きく、錯視量の少ない観察者においては、それぞれの図において左右の顔を比較して視線方向が違って知覚されれば、錯視が生じたことが確認できる。



もう一つの新しい視線方向の錯視は、「アイラインによる視線方向の錯視」である。これにも2種類あり、(1) 肌と白目よりも暗いアイラインを描くと視線はアイラインの同側に変位して見える現象、および (2) 肌と白目よりも明るいアイラインを描くと視線はアイラインの反対側に変位して見える現象から成る。ただし、(1) は上下にアイラインを描いた場合には同側に視線が変位して見えるが、左右の場合には反対側に変位して見える。

視線方向の知覚を決める要因としては、現在のところ、(1) 目の枠の中での黒目の位置、(2) 黒目 (虹彩) の中での瞳孔の位置、(3) 黒目の中でのプルキンエ・サンソン像の位置、(4) 顔の向き (ウォラストン錯視)、(5) 白目の輝度勾配 (充血錯視)、(6) アイシャドー、(7) アイライン、が考えられる。